

「CORN とうもろこし先物取引のご案内（以下「本冊子」という。）」に関する著作権は、株式会社大阪取引所（以下「大阪取引所」という。）にあります。本冊子の一部又は全部を無断で転用、複製することはできません。

本冊子は、大阪取引所の先物取引に関する制度の概要説明のみを目的として提供されるもので、先物取引の勧誘を目的としたものではありません。先物取引においては、相場の変動等によって損失が生じるおそれがあり、差し入れた証拠金の全部若しくは一部を失う、または、差し入れた証拠金を超える損失を被ることがあります。

また、相場変動等により証拠金額に不足が生じた場合には、追加の差し入れが必要となります。お取引に際しては、あらかじめお取引先の金融商品取引業者等より交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分にお読みいただき、商品の性質、取引の仕組み、リスクの存在、手数料等を十分に御理解いただいたうえで、御自身の判断と責任で取引を行っていただきますよう、お願いします。

また、本冊子に含まれる記述などの使用に関し、大阪取引所は一切責任を負いません。大阪取引所は本冊子に記載の事項に関し、将来予告なしに変更することがあります。



CORN

とうもろこし先物取引のご案内

金融商品取引業者等使用欄

CORN
とうもろこし先物取引のご案内
2023年8月発行

編集・発行 **株式会社大阪取引所**



〒541-0041 大阪市中央区北浜 1-8-16
TEL: 06-4706-0800 (代表)
URL: <https://www.jpx.co.jp>

とうもろこし投資の魅力

とうもろこしは、生育期間が約120日であり、主要生産国である米国では、4月中旬から6月初旬にかけて作付けが行われ、10年半ばから11年半ばにかけて天候を見ながら収穫されます。

とうもろこしの生産量はその年の作柄(生育や収穫高の状況)の影響を受けますが、その作柄は天候の影響を強く受けることとなります。作付け期前後から収穫期前後にかけては、生産地の気象環境が穀物生産に適した環境か否かが注目され、天候によって価格が変動する相場環境にあります。このような相場環境を「天候相場」と呼びます。「天候相場」終了後は主に需要サイドの動向を重視する「需給相場」に移行します。

【とうもろこしの特徴】

とうもろこしの用途は食用を除けば、「飼料用途」と「工業用途」に大別されます。飼料用途は、配合飼料の原料として養豚用、乳牛用、肉牛用、養鶏用などに主に使用されています。工業用途としては燃料用アルコールであるエタノールの原料としての利用が急増しています。

とうもろこしの主要な生産国は、米国、中国、ブラジル、アルゼンチンなどです。近年では南米産のプレゼンスが高まっていますが、米国が世界最大の生産国となっています。

一方、主要な消費国は、米国、中国、EU、ブラジル、メキシコなどがあげられます。

【とうもろこし先物取引】

大阪取引所(OSE)で行われるとうもろこし先物取引は、各契約の満期(限月:げんげつ)、立会時間、呼値(よびね)、取引単位などの条件が標準化されています。とうもろこし先物取引は、証拠金を預託することによって取引を行う「証拠金取引」であるため、資金効率の高い取引が可能です。

世界の主要なとうもろこし先物市場は、OSEのほか、シカゴ商品取引所(CBOT)を傘下に持つシカゴのCMEグループ、大連商品交易所(DCE)などがあります。なかでも、CBOTで形成される先物価格は国際的な指標価格となっています。

とうもろこし先物の制度概要

取引の種類	現物先物取引
取引対象	アメリカ合衆国産黄とうもろこしのうち、アメリカ合州国農務省穀物検査規格 No.3 (未通開のもの) (標準品)
呼値の単位	1,000kg につき 10円 (1取引単位につき 500円)
取引単位	50,000kg (1枚)
限月	各奇数限月 (直近 6 限月)
取引最終日	各限月の前月 15 日 (日中立会まで。休業日に当たるときは順次繰上げ)
新規限月設定日	当月限の取引最終日の翌営業日、日中立会から
受渡日時	各限月の 1 日から末日までのうち、最初の荷受渡予定日の前営業日の正午まで
祝日取引*	あり

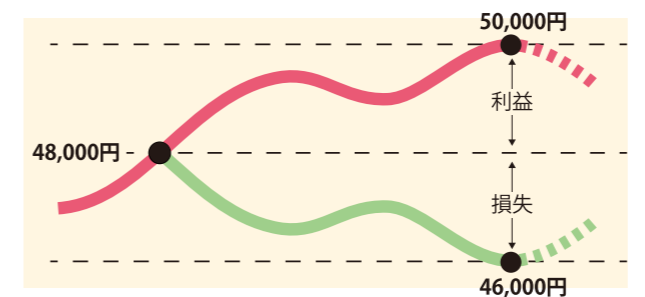
*祝日取引実施日はJFXウェブサイト参照。参考: <https://www.jpjx.co.jp/derivatives/rules/holidaytrading/index.html>



取引の計算例

<「買い」の例>

とうもろこし価格の上昇が予想されたため、とうもろこし中心限月を1トン当たり48,000円で5枚買い、その後50,000円まで上昇したので転売して決済しました。(赤線)



$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差益金)} \\ (50,000\text{円} - 48,000\text{円}) \times 50\text{トン} \times 5\text{枚} = & 500,000\text{円} \end{matrix}$$

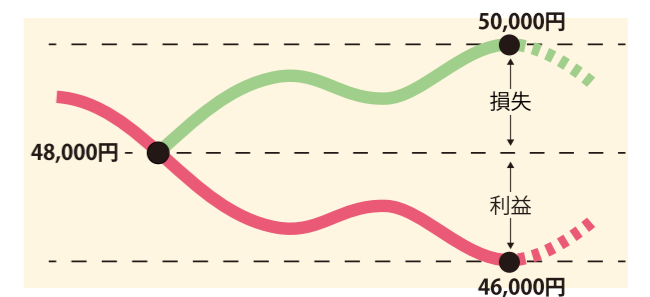
逆に価格が46,000円まで下落して決済すると(緑線)

$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差損金)} \\ (46,000\text{円} - 48,000\text{円}) \times 50\text{トン} \times 5\text{枚} = & \Delta 500,000\text{円} \end{matrix}$$

※上記計算例には手数料及び消費税は含まれていません。

<「売り」の例>

とうもろこし価格の下落が予想されたため、とうもろこし中心限月を1トン当たり48,000円で5枚売り、その後46,000円まで下落したので買い戻して決済しました。(赤線)



$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差益金)} \\ (48,000\text{円} - 46,000\text{円}) \times 50\text{トン} \times 5\text{枚} = & 500,000\text{円} \end{matrix}$$

逆に価格が50,000円まで上昇して決済すると(緑線)

$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差損金)} \\ (48,000\text{円} - 50,000\text{円}) \times 50\text{トン} \times 5\text{枚} = & \Delta 500,000\text{円} \end{matrix}$$

※上記計算例には手数料及び消費税は含まれていません。

とうもろこしの輸入採算早見表

(単位:円/トン)

為替 シカゴ相場	100円	110円	120円	130円	140円	150円	160円	1円当たり
2ドル	14,739	16,213	17,687	19,161	20,635	22,109	23,583	147
3ドル	18,834	20,717	22,600	24,484	26,367	28,250	30,134	188
4ドル	22,928	25,221	27,514	29,806	32,099	34,392	36,685	229
5ドル	27,022	29,724	32,427	35,129	37,831	40,533	43,236	270
6ドル	31,116	34,228	37,340	40,451	43,563	46,675	49,786	311
7ドル	35,211	38,732	42,253	45,774	49,295	52,816	56,337	352
8ドル	39,305	43,236	47,166	51,097	55,027	58,958	62,888	393
9ドル	43,399	47,739	52,079	56,419	60,759	65,099	69,439	434

※換算式: (シカゴ相場+C & F プレミアム1.6ドル) × トン換算39.368 × 円相場 + 諸経費 (×1.04)
※輸入採算価格は、換算式から求められるおおよその目安です。

とうもろこし先物の損益早見表

(単位:円)

値幅 枚数	1,000円	2,000円	3,000円	4,000円	5,000円
1枚	50,000	100,000	150,000	200,000	250,000
5枚	250,000	500,000	750,000	1,000,000	1,250,000
10枚	500,000	1,000,000	1,500,000	2,000,000	2,500,000
20枚	1,000,000	2,000,000	3,000,000	4,000,000	5,000,000
30枚	1,500,000	3,000,000	4,500,000	6,000,000	7,500,000

※差損益=値幅×倍率(50倍)×枚数
※手数料などは含まれていません。

とうもろこし価格を動かす主要因

とうもろこし価格を動かす主要因を6つ挙げました。世界が注目しているとうもろこし価格の指標のひとつがシカゴのとうもろこし先物市場の価格です。シカゴとうもろこし先物価格はさまざまな要因で変動しており、その動きは大阪取引所のとうもろこし価格にも反映されています。

Factor 1 シカゴとうもろこしの動向

とうもろこし価格の国際的指標となるのは農産物先物取引のメッカともいわれる、CMEグループのCBOTとうもろこし市場です。同市場で形成された価格は日本を含む世界各国のとうもろこし価格に反映されています。

Factor 2 米国の生産量

米国は世界一のとうもろこし生産国で、中西部のインディアナ、オハイオ、ミシガン、イリノイなど各州の有力な生産地域は“コーンベルト”の呼び名で知られています。作付作業は春に始まり秋に収穫をしますが、この間の天候が不順だと生育不良で収量が落ちるため価格が上昇し、逆に天候が良好だと収量が増えるため価格が下落する傾向があります。このため生育期の天候やアメリカ農務省（USDA）から発表される在庫率や輸出量の推移の動向は目が離せません。



Factor 3 エタノール

1990年代後半から脚光を浴びているのがとうもろこしを原料として製造されるエタノール（燃料用アルコール）の動向です。米国の脱石油政策を背景に年々エタノールの消費量が増加し、米国のとうもろこし消費量全体に占める使用割合は、近年では実に約4割ほど（EIA:米エネルギー情報局）にも達しています。また、バイオエタノール需要は原油価格の変動にも影響されることにも注意が必要です。

値上がり要因例

シカゴとうもろこし価格の上昇

米国など生産国の不作

エタノールの消費増加

通貨不安

世界経済の好調

投資資金の流入

シカゴとうもろこし価格の下落

米国など生産国の豊作

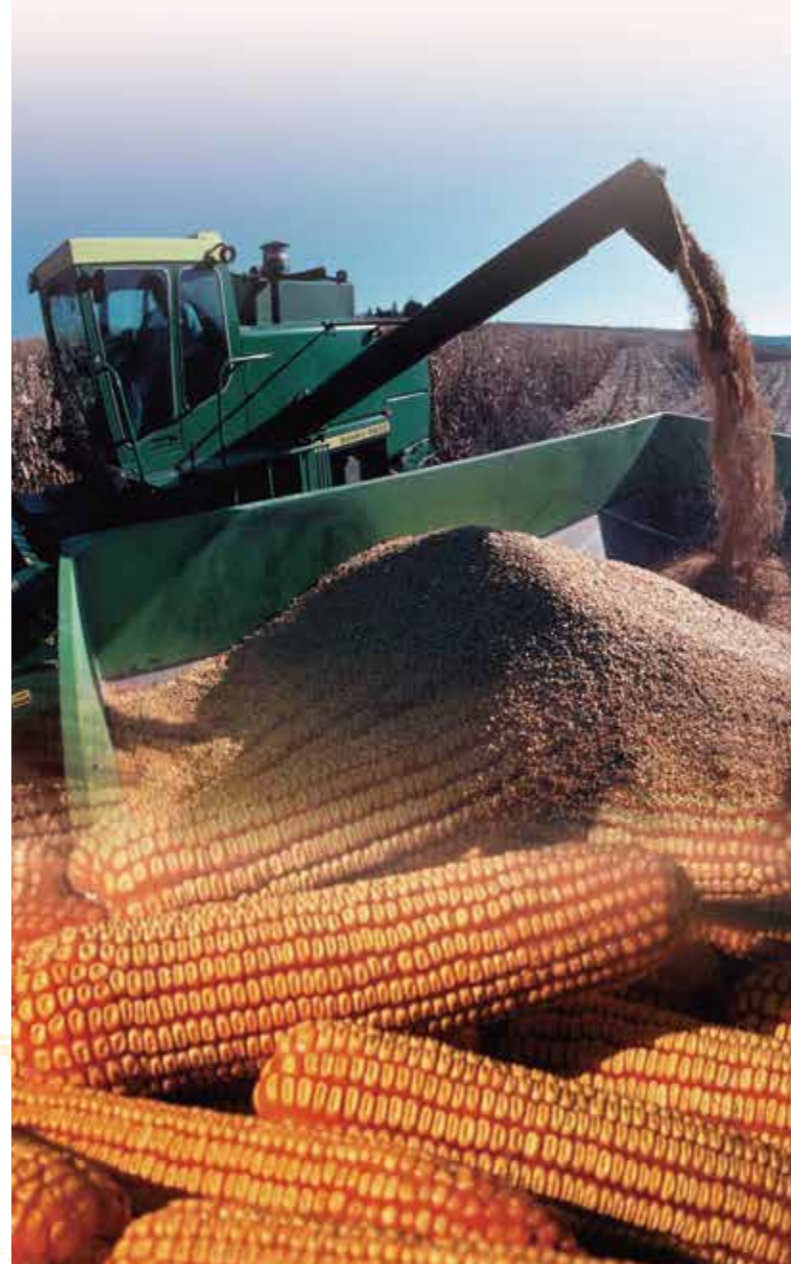
エタノールの消費減少

通貨安定

世界経済の不調

投資資金の流出

値下がり要因例



Factor 4 為替動向

米ドル建てで輸入されるとうもろこしの価格は理論的には為替が円安・米ドル高になった場合は上昇し、円高・米ドル安になった場合は下落します。またシカゴとうもろこし価格が高い時に円安になった場合は相乗効果をもたらし、上げ幅が大きくなることがあります。その逆に、シカゴとうもろこし価格が安い時に円高になった場合は下げ幅が大きくなる傾向があるので、とうもろこし先物をするうえで為替相場は常に注視する必要があります。

Factor 5 世界の景気

日本では食用のイメージが強いとうもろこしですが、世界的には家畜用飼料としての用途が圧倒的で、次いで多いのが工業用途、さらにエタノールの原料として用いられています。このためとうもろこし価格はそれらの分野における消費量を左右する世界の景気動向にも敏感に反応します。景気のバロメーターである株価や経済指標の動向を注意深く見守る必要があります。



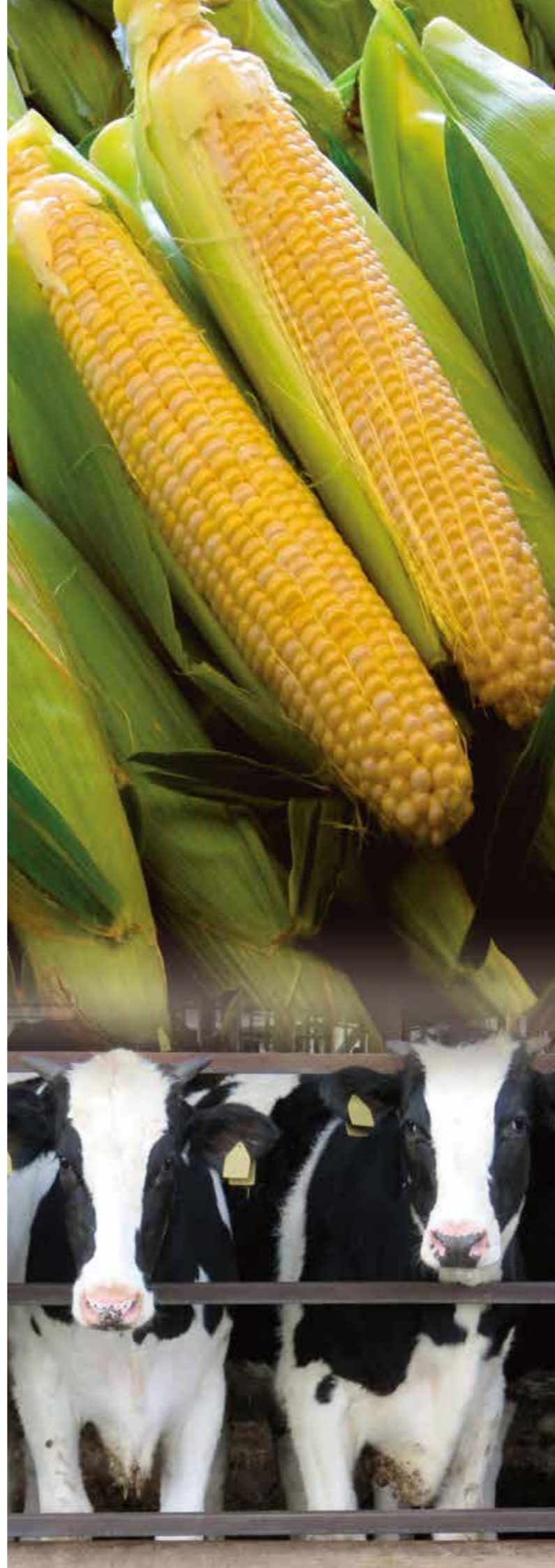
Factor 6 投資マネーの動き

とうもろこし価格は需給要因以外に投資マネーの動きに左右されることがあります。投資マネーを操るファンドマネージャーたちは、経済や政治動向をにらみながら、収益の機会があると考えればとうもろこし市場にも積極的に資金を投入します。その一方で、例えば世界的な株価の上昇などで有利な投資市場が見つければ、とうもろこし市場から資金を引き揚げてしまうことがあります。このため、投資マネーの動向には注意が必要です。



CORN 8

とうもろこし先物取引 8つの Q&A



Q1 とうもろこしの特徴をひとことで教えてください

A1 世界三大穀物のひとつです。

とうもろこしは、コメ、小麦とともに世界三大穀物といわれています。とうもろこしは、食用のほか、牛や豚、鶏などの飼料、エタノールの原料としても消費されています。日本はとうもろこしの供給のほぼ全量を輸入に頼っており、その大部分が米国産です。

Q2 とうもろこし先物取引の魅力は何ですか

A2 天候相場が醍醐味です。

農産物であるとうもろこしは、金属や石油などの鉱物資源と違って生産量が天候に左右されます。生産地域の天候が悪ければ減産となり、天候が良ければ豊作となるのが普通です。このためとうもろこし価格は作付期から収穫期の天候により大きく変動します。この間の値動きを“天候相場”といいます。

Q3 とうもろこし先物取引のメリットを教えてください

A3 投資効率の高い取引が可能です。

とうもろこし50トン(1枚)を買う場合、とうもろこし価格が1トン当たり48,000円なら240万円の総代金が必要となります。しかし、とうもろこし先物取引なら、同じ50トン(1枚)を取引するのに必要な資金はとうもろこし購入に必要な総代金の3~4%程度の取引証拠金ですみます。このように、とうもろこし先物取引は投資効率の高い取引が可能な点がメリットです。

Q4 とうもろこし先物取引は『売り』からも取引を始められると聞きました

A4 『買い』からでも『売り』からでも取引を始められます。

将来、とうもろこし価格が値上がりすると思えば『買い』から取引を始めて期限内に『転売』します。逆に、将来、とうもろこし価格が値下がりすると思えば『売り』から取引を始めて期限内に『買い戻す』のがとうもろこし先物取引の特徴です。この仕組みを“差金決済”といいます。

Q5 とうもろこし先物取引で注意すべきことは何ですか

A5 投資元本以上の損が発生する場合があります。

とうもろこし価格が予想とは逆に動いた場合には、投資元本以上の損失が発生する可能性があります。しかし、あらかじめ損失の限度を決め、それに応じた売買注文(ストップ注文)を出しておくことで、損失の拡大を回避することも可能です。

Q6 もし価格が予想とは逆に動いたらどうすればよいのですか

A6 早めの判断と冷静さが大切です。

相場が予想とは逆に動いて損失が発生した場合には、いま以上に損が拡大しないよう、いったん取引を終了して次のチャンスを狙うのか、それとも当初のプランに則って取引を継続するのかを冷静に判断しましょう。とうもろこし先物取引で最も大切なことは、資金に余裕をもって取引をすることです。

Q7 大きなリスクは取りたくありません

A7 リスクをコントロールすることが可能です。

とうもろこし先物取引では少額の投資で大きな利益を得られる可能性がある一方、損失を被るリスクもあります。しかし、利益の可能性とリスクの大きさは必ずしも同じではありません。さまざまな工夫でリスクをコントロールできるからです。積極的にリスクを取って大きなリターンを狙うことも、リスクを抑えつつ、そのリスクに見合ったリターンを狙うことも可能です。

Q8 とうもろこし先物取引はどこで売買するのですか

A8 注文は金融商品取引業者等に、取引は大阪取引所で成立。

とうもろこし先物取引の売買は大阪取引所で行われます。とうもろこし先物取引の取扱いについては、ご利用の金融商品取引業者等にお問い合わせください。

大阪取引所のとうもろこし先物取引とは？

とうもろこしというとスーパーや八百屋などで売られている食用のとうもろこしを連想する人が多いようですが、大阪取引所で取引されているとうもろこしは、主に牛や豚、鶏などの飼料用として消費されているものです。飼料用とうもろこしは、その大半を輸入に依存し、米国を中心にブラジル、アルゼンチンなどから輸入しています。